

**\*金子天文台の機材を国立天文台に譲渡—その4—:「公転地球儀」**

アーカイブ新聞に金子天文台廃止に伴う譲渡品についていくつかの記事を書いてきた。何しろ大変な量の機器を譲渡頂いたので書いておきたいことは山ほどある。順次書いていくが今回は金子功さんが工夫された公転地球儀(写真1)である。金子さんは青少年に夢を持ってもらおうといろいろ活動されていたが、その資金調達のためにいくつかの事業活動もされていたと聞く。この公転地球儀は「SPACE EDUCATION SERVICE」という事業体から発売したようである。この公転地球儀が入っていた箱に書かれていた文字が写真1の文字にその発売事業体の名前がある。



写真1 公転地球儀

この公転地球儀は太陽に模した電球面を中心に地球が回転するようになっており、太陽の周りを1回転すると地球も1回転するように同じ直径のプーリーがベルトで繋がれている。したがって1公転の間に地球は1回転しかしない。これで公転地球儀とは?と疑問である。太陽に模した電球を点灯したものが写真2である。



写真2 太陽に模した電球をつけたところ

この金子式の公転地球儀は、公転地球儀というにはいささか簡単すぎて何を教えようとしているかよくわからない。地球が太陽の周りを 1 回転する間には実際には地球は 365 回転と少し回らねばならないがこの公転地球儀は 1 回転しかしない。公転地球儀というものは、この金子式の他にも多種が存在し、もう少し手が込んでいるようである。太陽を 1 回転する間に地球を 365 回転させるには、このような簡単な作りでは不可能である。

この公転地球儀は太陽にもした電球面を中心にしたプーリーの軸と地球回転の軸がベルトで繋がれているため、地球だけを回転することが出来ないから、地球の自転による昼夜の現象を見せることも出ない。この仕掛けなら地球を中心にして太陽を回し、地球の自転による昼夜の様子を示すものとしたほうが良いと思うものである。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)